



神戸常盤大学

キャンパスレポート

2020.6
No.61

建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/

コロナ禍のなかで



学長 濱田 道夫

この春先に始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、あっという間に地球全体を覆いつくしてしまいました。グローバル化が人間の生活に、これほどまでの災禍をもたらすとは誰も予想しなかったのではないのでしょうか。感染の不安と恐怖にかられ、将来を憂える日々が続きました。グローバル化の影の部分、格差の拡大や地域社会の疲弊は日頃から事あるごとに指摘されてはいましたが、今回の悲惨なコロナ禍のなかでそれが一層鋭く浮き彫りにされたという思いです。

この間、本学も含め大学は感染防止対策でむずかしい判断を何度も強いられました。3日に1回対策会議を開いた大学もあったと聞いています。基本は、学生、教職員への感染防止を講じながら教育をどう続けていくかということです。本学は保健科学部を擁しているので専門家の意見を聞くことができ、この点は幸いだったと思います。本学では4月中旬から必修科目を中心に試行的にオンライン授業を開始し、5月の連休明けから本格実施に移りました。6月に入ってからは、対面授業とオンライン授業を並行して実施しています。保健科学部、教育学部、短期大学部、いずれも実技指導を含む授業があり、これらを中心に感染防止対策を講じながら対面での授業が行われています。

学生諸君はキャンパスに入れない日々が続き、とくに新入生の皆さんは、せっかく入学したのにその実感も得られず、不安と焦りの時期を過ごされたのではないのでしょうか。新設の診療放射線学科の新入生の皆さんは、1期生ということもあり、その点、並々ならぬものがあったかと思います。ウイルス感染拡大の折とはいえ、大学として学生の皆さんの期待に十分にこたえられなかった点は反省しなければなりません。失われた時間、大学にとっては教育を、学生諸君にとっては学びをこれから着実に取り返していきたいと考えています。本当の意味での学びの質保証は、大学と学生諸君との信頼関係のうえに築かれていくものと確信しています。

今後もコロナ禍のなかで大学が取り組むべき課題はいくつもありますが、その一つに経済的に困窮した学生諸君への支援があります。これについては文部科学省が緊急の支援策を検討し、6月から申請の受付を始めていますが、支援としては十分とはいえません。コロナ禍のなかで学生のアルバイト先が休業を余儀なくされ、休業要請が解除されてからも以前の状態にいつになったら戻るのかまったくわかりません。学業を続けられなくなる学生を一人も出してはなりません。国からの支援にまかせるだけでなく、本学としても積極的な支援に取り組んでまいります。

KIT(てらこや)が児童受け入れ 一休業中の学習の場を提供一

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、神戸市内の小学校では3月3日から5月6日まで臨時休業になった。非常事態宣言を受けて、KITも4月14日から休業せざるを得ない状況になったが、3月から4月までの一ヶ月余り、地域の子どもの学習サポートの役割を果たすことができた。



児童は席を1メートル以上離して学ぶ

本学の子育て総合支援施設KITでは、3月の公立小学校臨時休業当初から、地域の小学生を受け入れてきた。「大変な時こそ学びの場を提供したい」と江籠平施設長が語るとおり、地域貢献の一環として、4月13日まで小学生の居場所を提供しつづけた。平日10時から17時まで、KITの職員や学生ボランティアがサポートし、宿題、読書、工作や外遊びなど、様々な学習支援を行ってきた。

三密が叫ばれる以前から室内の消毒はもちろんのこと、児童の席の間を広げ、換気も十分にいき、検温、手洗い、うがいの励行、健康チェックなどを小まめに実施してきた。医療と教育の神戸常盤大学ならではの緻密な配慮である。

小学校に通えないまま3学期を終え、新年度を迎える子どもたちは、それでもKITで笑顔で友達と会って学習し、身体の健康と



学生と共に外遊びをする児童たち

心の健康を保ちながら生活してきた。

神戸の街と歩みを共にして110年。本学が長年蓄積してきた医療と教育の研究成果をもとに、子育ての拠点として設立した「子育て総合支援施設KIT」は、保護者、地域住民、大学生、大学教職員が文字通り「ミナナデコソダテ」する社会インフラとして長田の街に着実に定着しつつある。



笑顔で昼食を食べる児童

＝NET配信で子育て支援＝

「ときわんクニツカ」と「ときわんモトロク」では、子育て中のお母さんに向けて、動画の配信を始めた。自宅のできる遊びの情報や手遊び歌などを、動画とテキストを交えて配信している。また、ときわんが登場して、お誕生会の様子も配信。子育て中のお母さんたちが少しでも和やかな気持ちになってもらえるよう様々な方法で支援している。



ときわんモトロクの動画配信
「おうちあそび情報」



ときわんクニツカの動画配信
「ときわんとお誕生会」

新入生を迎えて



副学長
保健科学部 学部長
鎌田 美智子

いつもは新緑が目にも染みるような明るいキャンパスも、今年は入学式以降、まるで灯が消えたような状況となっています。周知の通り、新型コロナウイルス感染防止のための在宅学修措置が長引いているからで、私たち教職員も寂しい限りです。しかし一部遠隔授業が開始され、直接ではありませんが、皆さんとの「教え・学ぶ過程」で、知識や技術を伝えると共に互いの考えや思いを交歓できる喜びを実感しております。早く対面授業となつて、もっと深い過程となることを願っています。

ところでこの新型コロナウイルスですが、未知の極めて恐ろしい存在で、今は拡大防止のルールを厳しく実行して命を守ることが絶対です。しかし、一つの生物であることも事実です。人間は人間を含めた生き物や体内に存在する微生物などと共生して存在しているという、つまり生きとし生けるものを通していのちの実相を考えることも重要なのですね。本学には「いのちと共生」という全学的な科目が開講されています。是非、学問的な視点からも今回の災禍を学んでみてください。やがて人類がこのウイルスに対しての免疫を獲得し、普通の鼻風邪のような日常的なものとして捉えられる日を切望して、今は不自由ですが、共に頑張りましょう。

本学は2学部4学科、そして短期大学部と、共に専門職の育成を目指しています。今年、診療放射線学科も加わり、大きな力を得ています。我が国は超高齢少子社会の真ただ中にあり、専門職にはそのニーズに的確に対応できる力が求められています。このためには、それぞれが独立した機能と役割を果たし、かつ協働し、その総和以上の力を発揮することが必要となります。

本学で豊かな基盤教育と確かな専門教育を学び、「学びの絆」を深めつつ、知性と感性、そして連携力を備えた専門職を目指してください。



教育学部 学部長
大森 雅人

教育学部こども教育学科にご入学の皆さん、おめでとうございませう。本年度は、96名の新入生をお迎えいたしました。皆さんをお迎えできたことを、心より嬉しく思っています。これからの4年間、主体的に学び、多様な経験を重ねて、しっかりと自分の夢を叶えられることを心より願っています。

ここまでは、毎年、新入生の皆さんにお伝えしてきたメッセージです。しかし今年、いつもとは異なる4月を迎えました。原稿を執筆中の今現在も、対面授業は再開できていません。皆さんとは、オリエンテーションでお会いして以来です。このような事態は、私の大学教員人生で初めての出来事です。それは私だけでなく、世界中の多くの人々にとっても、初めての経験と思われる。今、全人類がそれぞれの立場で、未知の困難に立ち向かっているのです。先は見通せませんが、歴史を振り返るなら、終わらない困難はありませんでした。

未来は必ず先に続いていきます。私たちと一緒に、頑張りましょう。4年後、すべての新入生が卒業の日を無事に迎えられるよう、私たちは全力でサポートします。



保健科学部
医療検査学科 学科長
坂本 秀生

新入学生の皆さん、神戸常盤大学保健科学部医療検査学科へようこそ。本来なら新緑に囲まれた本学キャンパスにて、新たな学友達と新鮮な生活を謳歌している頃でした。大学での90分授業に慣れることなく、「遠隔授業」での講義は戸惑ったことと思います。臨床検査入門の出席課題を読ませてもらい、いずれのレポートもよく書いており、新入生の期待をしっかりと感じました。入学式時にお伝えしましたが、「普通」がどれだけ幸せか、あらためて感じているのではないのでしょうか。これまで皆さんは保護者の庇護と援助のもと、普通の暮らしを営むことが出来ましたが、大学卒業後は皆さん自身の力で「普通の暮らし」を営むこととなります。コロナウイルスパンデミック後では、世界中で生活習慣が大きく変わる可能性があります。そのような際でも「普通の暮らし」を営む基本は、自立した生活です。そのためにも、この4年間で自立できる力と知識を養いましょう。



保健科学部
看護学科 学科長
長尾 厚子

今年度、看護学科では81名の新入生の皆様をお迎えし、新しい息吹を感じております。

新入生の皆様には、本来は各学部・学科の新入生が一堂に会しての入学式が挙行されるのですが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、学科ごとの入学式となりました。しかし、お出会いした時の新入生の皆様のキラリとした目の輝きに、教員一同が皆様の期待に応える教育をと、心あたらにしております。

看護学科では「いのちを支える確かな知識と技術、豊かな心をもつヒューマンケアのプロ」を目指し、カリキュラムを構築し展開しています。さらに、1年次に展開される基盤教育分野での幅広い教養分野の科目をはじめ、4年間をとおして「豊かな心」を育み、「ひと」として成長していくための糧となる多くの学修内容を展開しています。

8月に予定している「看護活動基礎実習」では、主たる6施設の病院で4日間の実習を体験し、患者様を中心とした多職種とのチーム医療の実践、退院支援調整、地域連携等、まさに地域包括ケアシステムの中核となる病院での看護専門職の役割を学び、専門職としての今後の学びの課題が見えるのではないのでしょうか。

これからも、国民の生命と健康を支える看護専門職への期待は益々大きくなってきています。教育課程内外での学びも含めて、4年間は短いものですが、大人として大きく成長される期間でもあります。有意義な日々となるよう、教員一同支援いたします。



保健科学部
診療放射線学科 学科長
松田 正文

保健科学部診療放射線学科に入学された86名の皆さん、入学おめでとうございませう。兵庫県下では初めての「大学が設置する、診療放射線技師を養成する学科」として新設された本学科は、喜びに溢れた皆さんを迎え、4月に活動を開始する予定でした。ところが、新型コロナウイルス感染症の蔓延という、抗い難い予測不能の事態が発生し、皆さんに多大なご迷惑とご心配をおかけしています。災いは、我が国のみならず世界全体に及び、未だ終息の目途さえ立っていません。この事態は、医療・教育系の実学教育を基本としている本学にとって大きな試練ですが、同時に、考えるべき多くの課題を提供する教材と捉えることもできます。本学は一丸となつてこれに立ち向かい、最善の道を見出し進んで行かなければなりません。その一員である本学科も「禍を転じて福となす」よう努力し、第1期生の皆さんとともに新しい歴史と伝統とを築いていこうと思っています。



教育学部
こども教育学科 学科長
光成 研一郎

4月2日(木)通勤・通学の混雑を避けるべく、午後1時より開始された学科ごとの入学式が1名の遅刻者もなく挙行されました。新入生全員がマスクを着用しての参列になりましたが、希望に満ちた96名の眼力をみて安心いたしました。新入生の皆さん同様、我々教員にとっても最も記憶に残る入学式となりました。

これからの変化の激しい社会で教員、保育者になるということは、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲や態度が求められます。本学には、皆さんが主体的に学ぶことのできる様々な環境を用意しています。子育て総合支援施設KITでは児童、乳幼児、さらには保護者との関わりを経験できます。これらの経験は実習や現場に出る前の皆さんにとって大いなる力となるはずです。ボランティア・地域交流・国際交流活動にも積極的に参加してください。

我々教員は、規模が小さいというメリットを最大限いかして、きめ細やかなサポート体制で皆さんの夢の実現を全力でサポートします!



短期大学部
口腔保健学科 学科長
吉田 幸恵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご家族の皆様におかれましては心よりお慶びを申し上げます。今年はコロナ感染拡大防止の影響で入学式以降登校できない状況が続く、皆さんもご家族の皆様も不安な気持ちでお過ごしになられた事と思います。

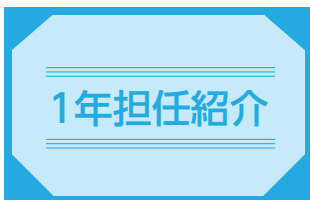
さて、本学科の教育理念は、「いのちを大切にす温かく豊かな感性と知性を備えた資質の高い歯科衛生士を養成する」ことです。最初は聞きなれない用語や新しい事柄ばかりで戸惑われるかも知れませんが、経験の深い教員が全力で支援しますので、安心して勉学に励み、知性を磨いて下さい。

また大学では学業だけでなく、部活やサークル活動で学部・学科を越えた交流を深めて下さい。ボランティアや地域貢献といった社会活動も経験して下さい。これらの多様な価値観を持った人との出会いが、きっと豊かな感性を育てくれる事と思います。専門知識を生かすために多くの人と出会い、豊かな感性と知性を備えた質の高い歯科衛生士を目指して下さい。



短期大学部
看護学科通信制課程 課程長
金川 治美

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本来なら、4月に入学を共に喜び、学習説明会でこれからの学生生活を一緒にイメージしながら、レポート作成計画に着手する予定でしたが、残念ながらそれが叶わず、春季スクーリングでお会いすることも出来ず、皆さんもとても不安の中であらう経過していると思います。また、一方では准看護師として医療の現場で戦っておられるであろう現状を思うと、1日も早くこの状況が収束することを願わずにはいません。このような中で仕事や家庭での役割をこなしながら、通信制の学習を継続することは容易ではないと思います。大学側もできる限り皆さんの不安を解消し、学習が進められるようにどう支援すべきか検討してまいります。仕事以外での外出は控えなければならぬ状況ですから、まず、出来ることとしてレポート課題に早めに取り組んでください。疑問があれば、科目担当者に質問してください。これは新入生以外の方にもお願いします。科目以外のことは、担当の教員への連絡を通してお答えしていきます。我々教職員一同は、これまで通り皆さんの「なりたいたい自分になる」ための努力に対して全力でサポートします。そして何よりもご自身と周囲の方々の健康を守ってください。スクーリングが開講できるようになって皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。



医療検査学科



Aクラス担任
栗岡 誠司
有機化学
無機化学
分析化学実習



Bクラス担任
新谷 路子
解剖組織学
病理学
基礎検査学



Aクラス担任
十九百 君子
基本看護技術I・II・III

看護学科



Aクラス担任
原 希代
在宅援助論
在宅看護特性論



Bクラス担任
尾崎 優子
小児援助論
看護対象論V
母子支援実習I



Aクラス担任
木村 英理
X線撮影技術学III(CT)
放射線カウンセリング学



Bクラス担任
今井 方丈
医用画像工学
医用画像工学実習

こども教育学科



教員養成コース
山下 敦子
国語
アカデミックライティング
教職論



保育者養成コース
笹井 隆邦
生き物と自然の力
理科
人類と地球環境



保育者養成コース
柳原 利佳子
基礎研究演習I
発達心理学
教育心理学



保育者養成コース
大城 亜水
家庭支援論
情報基礎
地域との協働A

口腔保健学科



Aクラス担任
福田 昌代
歯科保健指導論I
歯科保健指導論II



Aクラス担任
川野 亜希
病原微生物学
免疫学



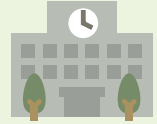
Bクラス担任
高橋 由希子
歯科予防処置論B
災害援助と救急医療



Bクラス担任
氏橋 貴子
歯科診療補助演習I、II、III
歯科補助演習I

新任の紹介

①住所 ②所属 ③専門分野 ④趣味・特技 ⑤好きな言葉



堀江 修

- ①芦屋市
- ②医療検査学科
- ③血液学、生理学
- ④魚に関すること全般、rock band
- ⑤出藍の誉れ



島袋 梢

- ①神戸市
- ②医療検査学科
- ③感染症学
- ④読書・物作り
- ⑤Emotion without action is useless



十九百 君子

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③基礎看護学
- ④華道、ヨガ、ウォーキング
- ⑤Enjoy



立垣 祐子

- ①高砂市
- ②看護学科
- ③精神看護学
- ④園芸、掃除
- ⑤ピンチはチャンス!



原 希代

- ①和泉市
- ②看護学科
- ③在宅看護学
- ④サウナ
- ⑤Take it easy



今井 方丈

- ①神戸市
- ②診療放射線学科
- ③医用画像工学
- ④音楽鑑賞
- ⑤人事を尽くして天命を待つ



谷口 英明

- ①大阪市
- ②診療放射線学科
- ③アナウンスメント全般
- ④ゴルフ、ジムで汗をかく
- ⑤Life is wonderful (人生はいいもんだ)



高久 圭二

- ①神戸市
- ②診療放射線学科
- ③素粒子・原子核物理学
- ④日曜大工、天体観望
- ⑤想像力は知識より重要



木村 英理

- ①神戸市
- ②診療放射線学科
- ③X線撮影技術学(CT)、放射線カウンセリング学
- ④プロ野球観戦
- ⑤雲外蒼天



伊藤 彰

- ①芦屋市
- ②診療放射線学科
- ③医用画像解析学
- ④自宅で飼っている猫を愛でること
- ⑤悠々として急げ



氏橋 貴子

- ①茨木市
- ②口腔保健学科
- ③社会歯学
- ④旅行(台湾・韓国など)
- ⑤得意澹然、失意泰然



川野 亜希

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③微生物学
- ④焼肉屋巡り
- ⑤為せば成る



川邊 玲子

- ①大阪市
- ②看護学科通信制課程
- ③老年看護学
- ④球技(特にテニス・卓球)、料理(特にインド料理・菓子)
- ⑤継続は力なり



庄司 祐至

- ①尼崎市
- ②事務局
- ④散歩、硬式テニス
- ⑤配られたカードで勝負するしかない



北風 英将

- ①神戸市
- ②事務局
- ④海外旅行(バックパッカー)、登山(キリマンジャロも登頂)
- ⑤Have fun!!



八代 茉莉

- ①神戸市
- ②幼稚園
- ④野球観戦
- ⑤All is well

1年を振り返って



医療検査学科 2年
大島 真希

この1年間は私にとって刺激的な1年でした。今までとは異なる環境での生活に不安や焦りもありましたが、同じ志を持った仲間や親身になって指導して下さる先生方と出会い、共に学ぶことで、大きく成長することができました。また、学外でも様々なことを経験することができました。特に、日本や海外での病院研修は大きな刺激になりました。実際に現場を見ることで、日本だけでなく世界の臨床検査の状況や問題点を学ぶことができました。また、臨床検査技師の在り方や目指す臨床検査技師像も見え、より専門的なことを深く学びたいと思いました。2年生では、ただ臨床検査技師に必要な知識や技術を学ぶだけでなく、社会人としての常識やマナーも身につけていきたいです。そして、自分の目指す臨床検査技師像に向かってより一層励んでいきたいと思っています。



看護学科 2年
小林 香織

私にとってこの1年は、看護師になるという目標に一步近付くことができた1年でした。私は、人や地域に貢献することができ、かつ大変だからこそやりがいを感じられる看護師になりたいと思い、看護学を学ぶことにしました。そのため、実習や模擬患者が参加する演習など、地域の人と関わる機会が多い本学での授業は、具体的な経験を積むことができ、とても充実した日々を過ごすことができました。また、私は今まで物事を後回しにしてしまうことがあり、予習や、レポートなどの課題の多さに、最初はとても苦戦しました。そこで私は、休み時間や空き時間を利用して、予習や復習、レポート作成、看護技術の練習に必死に取り組みました。その結果、苦手な科目でも自分の納得の行く結果を出すことができたり、一緒に頑張った仲間と信頼関係を深めることができたりしました。これから、本格的な実習や専門分野の授業が増えるため、今まで以上に大変になるとは思いますが、目標の実現に近付けるようにがんばります。



こども教育学科 2年
安部 さやか

入学してから様々なボランティア活動を経験し充実した1年になりました。特に小学校でのスクールボランティアは貴重な体験でした。そこでは特別支援学級児童の学習・生活支援を行いました。障がいを持つ児童への支援は、個々に応じた配慮が必要で、初めは戸惑うことが多く自信をなくすこともありました。しかし、児童と過ごす中で「安部先生が来てくれた! 先生早く遊ぼう!」と駆け寄って来てくれた時、先生として認めてもらえたような気がしてとても嬉しかったです。また神戸常盤大学の子育て総合支援施設KITでは、小学生の学習支援を経験しました。一人ひとりの苦手を把握し、それに対応したテスト作りに取り組みました。個に応じた指導を通して児童が課題を理解できるようになった時には大きな達成感を得ることができました。これらの活動を通し、児童一人ひとりと向き合うことの大切さを学びました。「教員になる」という夢を叶えるために、これからも実践的な活動を大切に、人よりも努力することを心がけようと思います。



口腔保健学科 2年
市来 瑠夏

1年前、これから始まる大学生活に不安と期待を持って入学したのを覚えています。正直なところは、不安の方が大きかったです。18年間生まれ育った地元を離れて始まる一人暮らしや、新しく友達ができるのか、毎日が不安でした。ですが、そんな不安は忘れてしまうほどに毎日が充実していて、1年間はあっという間でした。1年前期は、基礎知識を身につけるための座学と、ときわ病院実習や解剖実習の見学、後期には学内実習が始まりました。実習は、何度も何度もできるように練習を繰り返したり、友人と教えあったり、多くの先生方のサポートを受けながらひとつずつできるようになりました。また、2年後期からは臨地実習が始まります。不安でいっぱいですが、学内実習や講義では学べないことを学ぶ機会として、しっかりと基礎的な知識と技術をもって臨みたいと思います。自分自身に残された時間はあと2年しかありません。1日1日を大切に多くのことを学び、目標を達成できるように取り組んでいきたいです。そして、サポートして下さる多くの方々に感謝の気持ちを忘れず、これからもがんばります。



看護学科通信制課程 2年
吉永 健

私は不慣れな病棟勤務のなか、知識や技術など多くの不安を抱えて過ごしていました。そんな折、たまたま職場の同僚に神戸常盤大学短期大学部通信制課程在学中の方と卒業された先輩がいて本学を勧められ、看護を学びたいという気持ちが増し、職場、家族の協力や理解を頂き、大きな希望と不安を抱き、入学しました。この1年間、仕事と学校の両立、睡眠時間を削ってのレポート作成等々、正直辛いと感じることも多々ありました。しかし、それ以上に一つひとつの根拠を明確にしていくことで新しい気付きに繋がり、勉強することの重要性を学び、一緒に学ぶ仲間との交流、講師の方々の懇切丁寧なご指導等々、貴重な経験を学ぶ機会を頂いていることに感謝しております。昨今の世界的な感染症拡大の影響で、働きながら学ぶ今後の学習、実習に大きな不安を感じておりますが、健康管理に留意し最終目標である看護師国家試験合格に向けて邁進していきたいと考えております。

実習体験記

臨地実習を終えて



医療検査学科 4年
木田 安咲

私は臨地実習を通して、大学で学んだ技術や知識が臨床現場でどのように展開されているかを学ぶことで、自分の頭の中で点と点だった知識が繋がり理解を深めることが出来ました。さらに、実際に患者さんのデータや症例を見たり、業務を体験させていただくことで新しい知識もたくさん増え、レポートにまとめることで多くの知識を身につけることが出来ました。知識や技術の他に臨床検査技師の仕事のやりがいや大変さ、患者さんの検体を取り扱うことで検査技師としての責任も学ぶことが出来ました。その他に、質問に答えることによって自分の不足している知識にも気付くことが出来ました。日々、技術や知識を習得することができ、大きく成長できたと実感した38日間となりました。不安と緊張でいっぱいでしたが、皆さんとても優しく、丁寧に指導して下さい、充実した毎日を過ごすことが出来ました。臨地実習を行い、実際の臨床現場に立つことで、大学の勉強だけでは学べなかった多くのことを学ぶことが出来ました。また、働く姿や働いている実際の声を聞くことで検査技師としての将来の目標もでき、これからさらに国家試験に向けて勉学に励みたいと思います。

臨地実習を終えて



看護学科 4年
金 悠里

3年生の約半年間の臨地実習が最も印象に残っています。実習では様々な領域で患者さんにとって必要な看護について考え実践しました。臨地実習を終えて疾患や看護についての知識だけでなく看護師として患者さんに対する姿勢を学び、看護師になりたいという気持ちがより強くなりました。初めての实習では、自分に自信がなく、患者さんの迷惑になると思ってしまい、ベッドサイドになかなか行けませんでしたが、その実習で患者さんのことを知りたいという気持ちが大事ということを知り、次の実習からは患者さんのベッドサイドに積極的に行き、患者さん自身について知ることができました。その過程で個別性のある看護についても考えることができました。看護は人を対象とするため、患者さんを一人の尊厳のある人として大切に思うことは当たり前であり重要なことです。そして人として大切に思うには、その人を理解する必要があるということを知りました。私はこの学びを生かし、患者さんのその人らしさを大切にできる看護師になれるようこれからも努力します。

保育実習を終えて



こども教育学科 4年
佐藤 百華

保育実習初日は何をどうすればいいかわからず焦りました。しかし、私は自分の明るい性格を活かしてとにかく元気で積極的にいこうと考え実習に臨みました。そのため、先生方には「素直でいい子だね」「よく頑張ってるね」などたくさんお声をかけて頂きました。これらの言葉は私にとってとても大きな励みにつながりました。2日目、3日目と日がたつにつれ1日の流れも把握でき、徐々に自分から仕事を見つけて積極的に動くことが出来るようになりました。また、子ども一人ひとりとの関わりを深めることによって、信頼関係が深まっていったと思います。最終日に近づくにつれて子どもたちや保育園が名残惜しくなり、2週間あつという間だったなと感じました。実際の保育の現場で実践することによって、保育者の言葉がけや保育の方法などを学ぶことが出来ました。また、保育の大変さを身にしみて感じると共にやりがいを感じました。この貴重な経験を今後の大学での学修に活かしていきたいと思っています。

小学校実習を終えて



こども教育学科 4年
山内 翔喜

小学校実習での配属は元気いっぱいの2年生クラスでした。うまくやれるだろうかと不安な気持ちでスタートしてめくるめく1ヶ月。一番印象的だったのは最終日の出来事です。私はクラスの児童全員に手紙を書き1人ずつ手渡して行きました。その時、ある男の子が私の渡した手紙を「いらない!」と破り捨てました。流石に悲しい気持ちになりました。でもその時、クラスで一番手のかかった男の子が、手紙を破ってしまった男の子に「なんでそんなことするん? 翔喜先生が一生懸命書いてくれた手紙やで!」と注意してくれました。しばらくその様子を見守っていると、やがて2人でビリビリになった手紙をテープでくっつけて謝りに来てくれました。実習が始まった時にはかなり手のかかった子が相手の気持ちを考えて行動している姿を見て涙が止まりませんでした。手紙を破った男の子も私と離れたくないという気持ちをうまく表現できずに破ってしまったのだと後で分かりました。1ヶ月という短い時間でも児童たちが見違えるほど成長していく様子を見ることができました。そういった児童の成長を一番近くで共に感じ、助力できる先生になりたいと教育実習を通じて決意しました。



こども教育学科 3年
為島 舞

学生自治会長あいさつ

本年度の自治会長になりました教育学部こども教育学科 3年 為島舞と申します。神戸常盤大学は学生数が約1,300名で一人ひとりの距離が近いところが魅力です。学部学科関係なくみんなで協力して、神戸常盤大学を活気づけていきたいと考えています。キャンパスライフを盛り上げ、コミュニケーションを活発にするために、常盤祭などの行事を企画し、学生同士が交流出来る場を多く作っていききたいと思っています。他の自治会メンバーや先生方にお力を貸してもらいながら、1年間の任期を精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。

国内外で評価される神戸常盤大学の教育・研究成果

国際学会で最優秀賞論文受賞

2019年11月5日、中田康夫教授(看護学科、KTU研究開発推進センター長)、小崎恭弘准教授(大阪教育大学教育学部)、伴仲謙欣助教(口腔保健学科)、近藤みづき准教授(こども教育学科)、溝越祐志講師(医療検査学科)、光成研一郎教授(こども教育学科長)、高松邦彦准教授(診療放射線学科)らが著者となった論文「Sustainability of Equal Evaluations Among Teachers of First-Year Students in Higher Education」(高等教育の初年次教育における公平な評価の持続性)が、国際学会IEEE/IIAI International Congress on Applied Information Technology (IEEE/IIAI AIT 2019)にて、Best Paper Award (最優秀論文賞)を受賞しました。神戸常盤大学・同短期大学部の、基盤教育における初年次教育科目「まなぶる▶ときわびと」が、海外の高等教育界において高い評価を受けたことになります。



中田康夫教授(右)受賞の様子

兵庫県自治賞受賞

2019年11月25日、兵庫県民会館にて令和元年度兵庫県自治賞・こうのとり賞、くすのき賞の表彰式があり、医療検査学科長の坂本秀生教授が自治賞(健康功労)で表彰されました。

授与理由は兵庫県臨床検査技師会(兵臨技)の理事を務め、地域住民の健康増進への貢献でした。医療検査学科の教育目標である「医療チームの一員として地域社会はもとより、国際社会においても貢献できる人材を育成する」を、学科長自ら卒業生が多く所属する兵臨技と共に実践した証ともいえます。



坂本秀生教授受賞式の様子

人工知能コンテストにてBESTアイデア賞受賞

2019年12月26日、人工知能学会、セマンティックウェブとオントロジー研究会主催の、第2回ナレッジグラフ推論チャレンジにおいて、本学の高松邦彦准教授(診療放射線学科)を含めたAKKチーム(村上勝彦氏(富士通)、岸田あおい氏(本学医療検査学科5期 地方独立行政法人 神戸市民病院機構神戸市立西神戸医療センター、高松邦彦准教授)が、「小説『踊る人形』の暗号解読

の検討」にてBESTアイデア賞を受賞しました。

※ナレッジグラフ推論チャレンジとは人工知能技術による推論(推定)に関して、認識の共有と必要な技術の開発・促進を図ることを目的としたコンテストです。

文部科学省 私立大学改革総合支援事業に採択

令和元年度 文部科学省 私立大学改革総合支援事業において、神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部がともにタイプ1「特色ある教育の展開」、タイプ3「地域社会への貢献(地域連携型)」に採択されました。

本事業は、教育の質的転換や、地域におけるプラットフォーム

形成による資源の集中化・共有など、特色化や機能強化に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を、文部科学省が重点的に支援する事業です。

今後も本学の特色を活かし、全学的な体制で様々な取り組みに邁進してまいります。



研究ノート

オムツ交換による病原菌の拡散を防げ!

医療検査学科 助教 三浦 真希子



私は、保育施設における感染症対策が必要な作業の1つであるオムツ交換方法について研究しています。大便中の細菌が、トイレットペーパーを貫通し手指を汚染させることは知られていますが、おしりふき用ウェットティッシュはどうでしょう。これまでの我々の研究では、ウェットティッシュを数枚重ねて使用しても、高い確率で手指が汚染されることがわかっており、病原微生物による汚染が広がる可能性は否定できません。

『保育所における感染症対策ガイドライン(厚生労働省2018年改定)』では、排便処理の際には使い捨て手袋を着用すること、下痢便時には使い捨てオムツ交換シート等を敷くこと、便処理後は石けんを用いて流水でしっかりと手洗いを行うこと、交換後のオムツは、ビニール袋に密閉した後に蓋付き容器等に保管すること等が明記されています。一方で我々の調査では、これらを徹底できたとしても、医療現場とは異なり、細かくマニュアル化されていない施設が多いことから、交換の過程で周囲を汚染させる可能性があることがわかっています。

例えば、使い捨て手袋をしていたとしても、その着脱のタイミングを間違えれば、汚染された手指であちこちを触ってしまうことになりかねません。また、使用済みオムツを家庭へ持ち帰る決まりとなっている場合、保育士さんは使用済みオムツを個人の棚に分別する作業があり、作業が複雑になる分、汚染リスクを増大させる可能性は否定できません。多忙な保育士さんの作業をよりシンプルにし、周囲への汚染を最小限にすることができるオムツ交換方法を構築することが重要だと考えています。

「越境」への共鳴と期待

看護学科 助教 尾崎 優子



私の研究テーマは、ずばり「越境」です。これは、国境など地図上の境界を越えることではなく、組織や制度、文化的な枠(壁)を乗り越えることを意味します。近年、人間社会を覆う問題の複雑さが私たちに改めて突きつけられ、「持続可能性」というキーワードが注目されています。持続可能性は、多様な社会問題を総合的・調和的に解決しようとする人間集団の育成によって高められます。また、様々な専門性を持つ人たちが協働するコミュニティやネットワークの形成が必要となります。越境は、実践の主体・集団・組織が、自分たちの立場にとらわれずに自由に専門性を発揮したり、従来の専門性をいったん解放したりするような動きがうまれる学びのかたちであり、学生や社会人によるボランティア学習・協働学習に注目し研究しています。

持続可能性への挑戦は、健康問題に取り組む看護職にとっても大変重要な課題です。病気や障がいがあっても地域で暮らし続ける、あるいは次世代を健やかに育てることへの支援は、地域社会の持続可能性を高めることにつながります。私は、小児看護学を主に担当していますが、看護を一つの道具にしながら、多領域の人たちとの協働を意図した実践に関心をもっており、国連大学が認証する「ESD推進ネットひょうご神戸」という団体のメンバーでもあります。いずれはこのような団体と大学との連携を深め、地域に還元できるような活動を展開したいと考えています。

ネパール研修報告

ネパール交換研修生派遣制度で研修生の受け入れに二度関わりました。一度目は、2年前の医療検査学科研修生のスピナさんが我が家にホームステイしました。彼女はお箸を使うことに苦労しながら、生まれて初めてお寿司を食べて大変喜んでくれました。言葉の違いに苦労しながら、浴衣を着たり花火をしたり日本の文化を味わってもらうことで国籍を超えて親密な関係になっていきました。別れ際「また会おう!」と約束をしました。それから1年後に今度は私がネパールへ行きました。スピナさんのお宅でネパール料理を食し、民族衣装を着せてもらい大歓迎していただき、家族の皆さんの温かさに感動しました。



本学でのお別れパーティー

看護学科 4年 辻 恵里奈



また二度目は、助産師と看護師の研修生、ハシナさんとニツさんが来られ、同じ看護学科ということで親近感がわきました。2人は学内での演習施設や病院での見学で、ネパールと日本の医療機器や環境、看護の違い等について学びを深めていました。ホームステイ先では、家族ぐるみでお付き合いがあり食文化や武術の交流もあったようです。こうした国境を越えた繋がりが多文化共生の礎を築いていくのだと思いました。



関西国際空港で

ときわ幼稚園通信



ときわ幼稚園 教諭
高田 保子

本園が保育を行う上で大切にしていることの一つに自然とのかかわりがあります。春から初夏にかけては園庭の花びらでままごとをしたり、色水遊びをしたりします。秋には裏山に出かけます。たくさんの落ち葉の上を歩き、「ガサ、ガサって言ってるね」とその感触を楽しんでいます。またいろいろな大きさのどんぐりを友達と見せ合ったり、坂道でどんぐりを転がし、大きさや形によって転がり方が違うことに気付いたりします。そして冬には園庭で氷づくりをします。水を入れた容器を「園庭のどこに置けば氷になるかな?」といろいろな場所に容器を置いて試します。

また1年を通して大学のビオトープに出かけます。ビオトープまでの道に咲いている紫陽花、ビオトープのメダカやアメンボ、また笹や菖蒲の様子を見たり、ミカンの木に実がなるのを楽しみにしたりしています。

子どもたちは自然とのかかわりの中で考えたり試したりしながら遊びを発展させたり、学んだりしていきます。四季折々の自然にふれて遊ぶことをこれからも大切にしていきたいと思います。



めだかがいるよ



コロナ禍の中で…

私は大学を卒業して早3年が過ぎ、現在は救命救急センターの初療現場で日々、目の前の命と向き合っています。昨今、COVID-19が猛威をふるい私達の生活に大きな影響を及ぼし、未だいつ終息するのか見通しがつかない状況です。私が勤める病院にも連日、何十人ものCOVID-19の疑いがある患者が来院し医療者は日々、感染の恐怖と闘っています。また大学を卒業した同期の中には保健師とし



発熱外来 TENT と当院

看護学科 6期 中之内 亮太



て連日、対応に当たる者もあり、皆がそれぞれの現場で活躍しています。

私の病院ではコロナ禍でも通常通り救急患者を幅広く受け入れており、患者の多くは突然、日々の生活を病に奪われ不安や恐怖を抱いて来院します。看護師は、そういった人の精神フォローも重要な仕事のひとつであると学生時代に学び日々実践しています。これは救急患者に限らずCOVID-19患者においてもそうですが、家族を含めたフォローや看護介入は、患者のセルフケア能力を高め、治癒への早道に繋がると考えています。

まずは、このコロナ禍が一日でも早く終息することを願うばかりです。



神戸常盤大学短期大学部歯科診療所のご案内 ☆あなたのお口の健康をまもります☆

〈診療時間〉

月曜日～金曜日 10:00～12:00/13:00～16:00

〈診療内容〉

歯磨き指導、歯のお手入れ、義歯のお手入れ、フッ化物塗布、むし歯や歯周病の検査、お口の機能向上、お口の健康相談

“あなたに合ったお口の健康を保つ方法をお伝えします！”

小さなお子さまから、どなたでもお越しく下さい”

〈費用〉

基本料金500円

〈神戸市在住の方〉

- ◆神戸市妊婦歯科健康診査
- ◆神戸市40歳総合健診歯周疾患検診
- ◆神戸市50歳歯周疾患検診
- ◆後期高齢者(75歳以上) 歯科健康診査

を行っております。これらの健診は無料です。

〈予約方法〉

078-611-1831 (神戸常盤大学短期大学部歯科診療所)
予約の上、お越しく下さい。



令和2年度 オープンキャンパス & WEB OPEN CAMPUS のお知らせ

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、やむを得ずオープンキャンパスを中止する可能性があります。開催日直前に再度ホームページにて実施の可否のご確認を宜しくお願い致します。

〈日 時〉 7/12(日)・7/19(日)・8/1(土)・8/2(日)・8/29(土)・9/6(日)

午前の部:10:00～12:00・午後の部:13:30～15:30

〈内 容〉 学部・学科紹介、キャンパスツアー、個別相談会等

〈場 所〉 本学キャンパス(無料送迎バス運行)

詳しくはHPで!

★見学・入試に関する事などのご質問は遠慮なく入試広報課にお問い合わせください。

〈問合せ先〉 入試広報課 TEL: 078-611-1833

Email: nyushi@kobe-tokiwa.ac.jp



WEB OPEN CAMPUS



LINE 公式アカウント

財務情報につきましては、本学園のホームページをご覧ください。